

令和 4 年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人富士学園 静岡県富士見中学校・高等学校

1 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

- (1) 教育学習面改善のための取り組み
- 令和 4 年度、柱として「教育充実のための取り組み」「各コース等の特色化」「研修体制の確立」を掲げ、教育学習面での改善を図る。
- (2) 学習支援のための取り組み
- 国が推進する教育改革に対応すべく、アクティブラーニングを取り入れるなど生徒が能動的に学習に取り組んでいけるように、整備された ICT 環境を活用し授業改善を図る。その中で、「学習支援の充実」「ICT 環境の活用と整備計画」「教育の PDCA サイクルによる成果の可視化」「国際交流の充実」を柱とする。
- (3) 進路実現支援のための取り組み
- 進路実現の支援として、「進路指導の充実」「進路実績の向上」を図る。
- (4) 地域連携・地域貢献のための取り組み
- 全人格的な生徒の育成を目指し、教科での指導を超えた地域に根ざしたボランティア活動や部活動等を活性化するための環境整備を行う。特に、コミュニティ研究会を基軸に地域貢献などを通して、年間を通し地域との共生を図る。また、希望者による施設訪問やボランティア活動を積極的に行う。
- (5) 生徒募集のための取り組み
- 在校生・卒業生が富士見で学んで良かったと思えるよう、全教職員が日々の教育活動を充実させるとともに、本校の魅力を改めて分かり易く整理し、富士見で学びたいという意欲が高い生徒を受け入れるために、あらゆる情報を多様な募集・広報活動で発信し、入学者の確保を図る。

2 自己評価とそれに対する学校関係者評価

【※ 評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）】

【注意事項】 以下の自己評価は、大が進学実績等を除き、概ね令和 5 年 2 月中旬までの記載になります。

1. 教育学習面改善のための取り組み		
実践計画	(1)「教育充実のための取り組み」 令和4年度より、高校は特進コース・総合コースに改編し、また、併設中学からの内進生が特進コースⅠ・Ⅱ類へ接続することに伴い、それぞれのコースの特色を生かし、生徒のニーズに合った進路保証を推進し、社会に有用な人材育成を目指す。 (2)「各コースの特色化」 ① 特進コース ア)大学入学共通テストに対応すべく、5教科の知識・技能をバランスよく学び、さらに思考力・判断力・表現力を身に付ける。 イ)ICTを活用した授業を通じて日常的に主体性・多様性・協働性を身に付ける。 ウ)教科学習と並行して、外部との活動を通じ、社会につながるスキルを身に付ける。 ② 総合コース（進学コース） ア)基礎学力を確立し、得意科目をさらに伸ばす。 イ)多様な進路希望に合わせて一人ひとりの個性を伸ばす。 ウ)高大連携や体験学習を通じて、希望進路の実現を目指す。 ③ 中学部 ア)高校がある中学の良さを活かせるような教育活動を推進する。 イ)英語に特化した教育活動を研究・再構築する。 ウ)一人一台タブレット環境のメリットを引き出す環境整備と運用を図る。 (3)「研修体制の確立」 ① 初任者（教職経験5年以内程度）研修の充実 現在の初任者研修を改編し、研修内容の充実を図る。 ② ICT教育研修の推進 教科指導例の情報収集、研究及び実践を学ぶ。 ③ 学年会議やコース会議・教科会議等の充実 生徒の情報共有や指導法の検討を充実させる。	
	自己評価 ・ 進学コースから総合コースへのコース名を変更し、生徒や保護者のニーズに応える進路指導を目指した。 ・ 内進生は特進Ⅲ類から特進Ⅰ類・Ⅱ類への接続に変更し、生徒や保護者のニーズに応える教育活動を目指した。その中で、内進生が積極的に活動し、リーダーとしてクラスを盛り上げていた。 ・ 特進コースでは、英語教育活動として、授業時にスマホを活用した。 ・ 特進2年生において、グローバルクラスメイトに変わる活動として県地域外交課と台湾教育旅行連盟の斡旋で、台湾の高校（中山工商=(私立)高雄市中山高級工商職業学校）とのオンラインでの交流活動を実施した。数多くの希望者があり、英語を用いた異文化交流等、有意義な活動になっている。また、次年度は、中山工商の生徒の来校希望もあり、前向きに検討している。 ・ 探究活動として、特進2年生を中心にした全国模擬裁判選手権大会で県予選を勝ち抜き、全国大会へ出場した。初めての参加で全国大会出場の結果を得たが、富士市内の弁護士の先生方も何回も来校していただき、ご指導していただいた結果であり、生徒にとってもとても有意義な体験であった。 ・ 特進コース2年生で探究活動を行う中で、静岡県高校生サミットなど様々な各種団体の主催する探究活動の発表会等に参加し活躍した。この活動を校内においても成果発表会の形で行った。また、この活動の成果が進路実現に役立てるものと考えている ・ 特進2年生Ⅰ・Ⅲ類で、英語のみのコミュニケーション体験「Tokyo Grobal Gateway」に参加したが、英語学習の強化に繋がるとともに、貴重体験ができ、生徒にはとても好評であった。 ・ 特進1年生は、放課後の活動（HAP）の中で常葉大学・神奈川工科・神奈川大学からの講師を招き、英語の魅力・理系文系の各系統への進路選択の方向性等の講演会を実施した。 ・ 特進1年生は、HAPで静岡新聞社からの講師による新聞講座を開き、新聞を活用した小論文指導を行った。 ・ 留学生が特進1・2年生に各1名ずつ所属した。留学生とともに生徒が校内外の様々な活動に参加し、留学生との交流を含め貴重な体験する機会を得た。 ・ 英検準1級に2名合格。その中で1名は高校2年生の6月に取得した。 ・ 明治大学読書感想文コンクール入選（17名）。 ・ 多様な進路希望を持つ進学コースでは、大学・看護学校等合格のための補習や就職内定に向けた支援など、生徒一人ひとりの希望に合わせてきめ細かく指導することが出来た。 ・ Literas検定合格率50%（1年3級65%）。 ・ 学校では生徒が落ち着いて授業を受けているが、家庭での学習習慣の定着が課題である。 ・ 授業時にタブレットを導入し展開するケースが多くなってきた。次年度の新入生より一人一台のタブレットを購入させた上で、授業を展開することになっている。課題は、教員からの一方通行ではなく授業時や家庭学習での生徒との相互通信を行うことができるようになることで、そのための研修が必要だと思える。 ・ 中学生の放課後の自主活動を従来のⅠ類型活動をⅡ類型活動に変更した。 ・ 委員会活動である中学生委員会が活性化し、各行事において縦割り活動を中心に生徒主体の活動が盛んになった。また、異学年の交流を図ることで、親睦を深めることや下級生の世話をする中で、上級生としての自覚を育むことができた。 ・ 中学校の「英語に特化した教育活動」として、生徒の自主性を重視した英語の多読を開始し、レベルに合わせた絵本等を設置した。これにより、英語を身近に感じさせ、英語の教育活動を強化した。 評価 B	

	・ 中学生全員に専用のタブレット端末が整備され、授業等で調べ学習を含め活用し、授業の幅の広がりが見られた。 ・ 中学３年生は、２月に予定していた海外語学研修が今年度も中止となったが、代替研修として校内で５日間、世界各国からの大学（院）生３名を講師に英語での研修「Self Discovery Challenge 自分の強みを生かし、自分らしく生きることを追求する」を行った。この研修では、全て英語で行い、中学３年間の英語学習の成果と高校入学後の英語強化を含め、多様化する大学入試に対応できる能力及びプレゼン能力を向上させるよい機会となった。 ・ 本校の特色である礼法教育をすすめるために、中学部全体で礼儀作法の資格を有している本校教諭を講師に、礼法・マナー講座を開いた。 ・ 静岡新聞から新聞活用教室 NIE の指定校に選ばれた。中学部全体の活用教室の中で、読み方指導・新聞記事を活用した授業を行い、その上で中学生委員会の資料等に用いる等、活用することができた。 ・ 探究学習において、中学生委員会を中心に SDG'S について取り組みを行い、環境や差別等に対する意識を高めるようになった。 ・ 中学校では検定取得に力を入れ、英検２級(2)、準２級(5)、３級(16)、漢検準２級(3)、３級(11)、数検準２級(2)、３級(3)に合格者を出すことが出来た。特に、英検での２級合格者が２名出るなど英語学習の成果が現れている。 ・ 初任者研修をベテラン教員からの指導だけでなく中堅クラス担任を交えて行った。中堅教員からは、クラス運営や保護者対応等、実体験を交えて話をしてもらい、若手教員からは悩みや困っていることを共有することができた。今後もこのような形で行うことにより、研修を強化していきたい。 ・ ICT活用として、BLENDを用いて生徒の出席・欠課時数確認や成績処理等、タブレットを用いて処理することを開始した。まだ、十分に活用できていないのが現状で、次年度以降活用できるように研修会を開いていく必要がある。 ・ 学年会議やコース会議など十分な時間をとれていないのが現状である。ただし、学年主任を中心に情報の共有を行っているので、大きな問題は出ていないが、今後は各学期末のみならず、学年会議等をとる時間を得て学年全体での情報の共有を図ってきたい。	
学校関係者評価委員から	・ コースの改編は、現状にあったもので、特に少ない内進生と外進生と融合し、進学か就職が決定していない志願者に総合コースを設定することは有効である。 ・ 初任者研修は、ベテラン教員、中堅教員との情報交換が有効に行われて良かった。ベテランの先生が新任の先生を教えることで、教科指導、クラス運営が一様になることが期待される。（教員アンケート結果から） ・ 高校の改編と内進生のⅠ・Ⅱ類への接続に伴う、進路保証推進と有用な人材育成を目指された報告を受けた。 ・ 多くの取り組みが紹介された。常にスクラップ&ビルドを心掛け、マンネリ化を避けて欲しい。 ・ 当校理念を基に、各取組みが相互に関連性があり、生徒諸君が深い理解をもって、それぞれに邁進できるよう引き続き配慮を願いたい。 ・ 何故Bと自己評価されたのか？結果において何が不足しAとならなかったかを知りたい。 ・ 中学部より内進した生徒が特進Ⅰ・Ⅱコースへ接続できる選択肢が広がり、更に切磋琢磨し頑張っていたきたい。 ・ 先生方の指導のもと、多方面にわたる取り組みが実施されて、各分野で大きな成果が上げられたことを嬉しく思います。生徒たちも積極的に学び、努力を続けてきた結果が表れています。 ・ 中学で一人一台タブレット端末を導入し、授業の幅が広がり、学習意欲が増したと思われます。 ・ 中学部の保護者の方から以下の話を受けました。 『子供本人が塾に通いたいと希望しているのですが、特進コースに進むと遅い時間まで学校に拘束され塾に行けないので、進学コースに進みたいのですが無理でしょうか？』 さらに聞くと、他の保護者の方にも同じお考えの方が多いようです。 内進生にとっても、特進コースに進むだけの魅力が無いが故のお言葉なのだと思います。 ・ 改善の取り組みによって、生徒達の自信に満ち溢れた笑顔を校内で見ることができ、生徒達の顔つきにも変化が現れている事を感じました。また、「研修体制の確立」においても、生徒の指導に対しての先生方のご努力に感謝いたします。	A 2名 B 4名 C 1名
2. 学習支援のための取り組み		
実践計画	(1)「学習支援の充実」 多様な表現活動と学習意欲を高めるカリキュラムの充実を図り、知識・技能の習得を基に思考力・判断力・表現力を育成するための工夫を全教員・全教科に取り入れる。 ① 新教育課程の学年進行による円滑な実施 ② 生徒表彰制度の拡充 生徒の意欲を高め、積極的に英語検定、漢字検定など各種検定試験に挑戦させることにより学習の補助となる基礎知識の充実を図るためのモチベーションアップにつなげる。 ③ 教育相談の充実 不登校または教室に入りにくい生徒への対応をきめ細かくできるように努める。（火曜日と水曜日にスクールカウンセラーを配置） ④ 生徒理解の充実 面接週間だけでなく、適宜個人面接を行い、生徒一人ひとりを把握し、個々の生徒に応じた指導を実施する。特に、いじめの重大案件については、全校的な取り組みができる体制をつくり、迅速に対応できるように図る。 ⑤ 保護者会活動が円滑かつ活発になるように協力する。 (2)「ICT 環境の活用と整備計画」 ① 生徒用端末機器の利用推進（中学） ② 一人一台タブレット導入の条件整備（高校） ③ 情報モラル教育の充実 情報機器や通信ネットワークを通じて社会や他者と情報をやり取りするにあたり、危険を回避し責任ある行動ができるようになるために身に付けるべき基本的な態度や考え方を養う。 (3)「教育のPDCA サイクルによる成果の可視化」 学校改革を推進していくために、学校評価をより丁寧に行う。授業評価・保護者アンケート、学力分析によるPDCAで改善を目指す。また、教育目標の具体化・数値化を図り、より客観的な評価ができるようにする。 ① 中間評価の実施 分掌・学年ごとの自己評価を中間評価として夏季休業中に行うことによってより迅速な改革につなげていく。また、年間計画を明確にすることによって、計画への取り組みを全体で共有できるようにする。総括として、一年間の成果と課題を明らかにし、関係者評価や分掌総括を行い、次年度への取り組みの指針とする。 ② 保護者アンケート ③ 外部模試後の学力分析会の実施 ④ 授業公開・研究授業の実施 保護者への授業の公開 Week を年２回設定し、学校公開を積極的に行うと同時に、保護者の視点での授業評価を真摯に受けとめ改善に取り組む。 (4)「国際交流の充実」 グローバル化が進む中での教育には欠かせない教育活動である交流事業を推進し、留学生の受け入れを行い、国際交流と共に異文化理解も深めていく。	
自己評価	・ 公立中学・高校出身の元校長先生方を交えて、現時点での本校の魅力や問題点等を話し合う機会を持った。授業改革や本校の方向性を含めた話となり、今後も継続して会議を持つことにより、学校の発展に繋げたい。 ・ アクティブラーニングの授業展開が求められる中、各先生方がグループワーク等、生徒自ら能動的な授業展開を行うことに心掛けた。しかし教科によっては従来の講義形式で行うことも多かったので、今後、教科間での授業参観や研修を行う必要がある。 ・ 高校1年生より、総合的な探究の時間で、探究活動を行った。従来は一部の先生方による指導であったが、学年全体で取り組みをはじめた。 ・ 全体での成果発表会を行うなど、3年後の進路選択に役立てたい。 ・ 部活動の表彰等、体育館に一同を集めて全校集会を行うことができなかったため、すべての表彰をZOOMで行った。そのため、盛り上がり	評価 B

	に欠けることがあったので、次年度は体育館で表彰を行いたい。また、様々な大会や検定での賞状等を昇降口に飾ることにより、褒める機会を多く持ちたい。 ・部活動の表彰等、体育館に一同を集めて全校集会を行うことができなかったため、すべての表彰をZOOMで行った。そのため、盛り上がりに欠けることがあったので、次年度は体育館で表彰を行いたい。また、様々な大会や検定での賞状等を昇降口に飾ることにより、褒める機会を多く持ちたい。 ・本校独自の奨学生制度の変更を行った。これにより、生徒や保護者の意欲増加に繋がることを期待している。 ・コロナ禍においても、富士見祭（文化の部・体育の部）、中学2・3年の京都奈良研修、高2の修学旅行等、様々な行事が予定通り無事に実施でき、生徒の生き生きとした姿が見られた。 ・運動部では、女子バレーボール部の春高バレー県大会10連覇・総体と新人戦で県大会優勝、男子バドミントン部の総体県大会3冠、女子ソフトテニス部の個人戦での全国総体出場、東海大会へ男子陸上競技部・男子ソフトテニス部・女子空手道部が出場。文化部では、バトントワリング部の全国高文祭出場と3年連続バトン全国大会出場、将棋部女子は新人戦優勝など各部活動が各種大会で活躍し新聞等マスコミに掲載される機会が多かった。また、コミュ研による地域貢献活動では度々マスコミに取り上げられた。部活動の活躍や進学実績等をSNSや懸垂幕で宣伝するだけでなく、学校周辺に掲示できるような掲示板等の設置も検討していきたい。 ・週2回のスクールカウンセラーによる面談は、不登校や悩みを抱えている生徒が数多く利用し、予約が埋まっていることが多かった。また、保護者に対しても面談等を行う中で、適切なアドバイスを行っていただいた。ただし、カウンセリングのみではうまくいかないケースも多くカウンセラーから心療内科を勧められるケースが増加しているのが現状である。 ・4月から各担任による生徒個々への面談を行う中で生徒理解に努めた。それ以外でも常日頃から、生徒が家庭や友人間の様々な悩み等を担任や養護教諭に相談する機会が多かった。これによりカウンセラーにすぐにお願ひし、早めの指導に繋がっていた。 ・保護者が面談以外で参加できる学校行事が少なかった。そのため、授業参観等で来校する機会を設けたが、参加は一部のみであった。次年度は、保護者総会や富士見祭等で来校していただきたいと考えている。これにより、保護者会での活動も正常化していき、様々な行事で保護者会の協力を仰ぎたいと考えている。 ・すべての職員に iPad を配布、全教室で Wifi と電子黒板が整備され、授業改善に繋がり、生徒にも概ね好評であった。（活用例：授業内容を振り返る、興味・関心を高める、わかりやすく説明する、実演でやり方を示す、知識・スキルを定着させる等など）。ただし、まだ、教員側からの一方通行であるため、今後は、生徒との相互通信による授業展開が必要とされる。 ・ICT教育の手始めとして特進コースは、各自のスマホを用いて英語の授業で活用し英語学習の強化に繋げた。次年度の高校入学生より、一人一台タブレットの導入を行うが、使い方指導を含め、情報モラルに関する指導方法などの研修が必要と考えられる。 ・本校では、SNSに関して「見るな・作るな・書き込むな」で指導を行っているが、実際には多数の生徒が使用しているのが現状で、トラブル等も何件か報告された。今後は、使わせない指導よりは、使い方の指導（情報モラル）を充実させることに重きを置きたい。また、SNSの発信により、学校の魅力発信に繋げたい。 ・夏休み後、分掌・学年等の中間総括を行った。一学期に行ったことの反省を活かすためのよい機会となったが、まだ十分の機能はしていないので、各分掌等で学習のPDCAサイクル同様に、評価のみならず改善を行う必要がある。 ・観点別評価が高校1年生から新たに導入された。従来の事後評価に比べ、常日頃からの生徒観察により、評価の結果が生徒の具体的な学習改善につながるように努力した。ただし、教師によって評価方針が異なることもあり、また、教科間での会議の時間も取りにくいいため、学習改善に繋げにくいのが現状であり、今後、各教科間での話し合いの機会を持っていき、観点別評価により、生徒の学習意欲の向上に繋げていく必要がある。 ・観点別評価の導入により、PDCAサイクルを高めるためにも、生徒の「学習計画」→「学習活動」→「評価」→「改善」に結び付けたい。 ・保護者にはコロナ禍のため、富士見祭をはじめ、様々な場面で来校をしていただく機会が少なかった。その為、保護者面談や電話等による連絡により意見を伺うとともに、学校評価アンケートやいじめ・体罰等のアンケートをとることが中心になったが、従来の結果と大きな違いも大きな問題等はなかった。ただし、「富士見に入学させてよかった」等、満足する意見が増えていくことが大切であり、募集に繋がるので、その方策等を検討していく必要がある。 ・特進コースは、模試結果をふまえての学力分析を行った。この結果をふまえて各学年・教科で個々の生徒の特性を活かせるような指導を行うことに心掛けた。 ・6月と10月に各3日間の授業公開を行ったが、2回ともに50名を超える保護者の見学があった。保護者からは、生徒の日頃の学習態度や授業風景を見るよい機会となった等、好意的な意見がほとんどであり、次年度以降も継続して行っていきたい。 ・留学生2名（アメリカ・ドイツ）を受け入れた。留学生が体験入学で中学生に向けて本校の様子を話す等、様々な場面で活躍してくれた。また、在籍していたクラスにおいても交流を深める等、一定の効果はあったと思えるが、学校全体で交流する機会や留学生の様子が分かる機会が得られなかったのは残念であった。	
学校関係者評価委員から	・「重点目標」と「令和4年度学校評価アンケート結果」のアンケート項目との連動が不十分であり絶えず見合わせなければならず、非常に、わかりにくい。 ・生徒理解、教育相談の充実により、いじめが少ない。（生徒と保護者のアンケート結果から） ・ICTの活用は、ハード面では充実したが、ソフト面での活用こそが重要だが、まだこれからか？ ・学習支援、ICT活用と整備、PDCAによる教育成果の可視化、国際交流を掲げ、取り組まれた1年であったことが理解できた。 ・外部の有識者と方向性を協議された会議を開催されて、本校の魅力や問題点とはどのようなものであったか？ ・従来の講義形式を脱するには、教員の意識改革にあると理解した。しかし、具体的にはどのように対応されるか？ ・奨学制度の変更は、以前とどのように異なり、何を狙ったものか？ ・バレー部、バドミントン部、ソフトテニス部の活躍は立派である。コミュニティ研究会の取組みは、他分野でも活用可能な優れたもの。これらは、本校魅力発信の源である。 ・SNS（Facebook, Instagram）では、当校の発信が「起承転結」でいう「結論」のみ。学校が「訴えること」「狙っていること」が無く、魅力なし。これらは熱い思いを発信する道具で、ここを引き付ける要因は「ストーリー」である。その背景や過程を標記することは必須で、それなしは、単なる掲示板情報に過ぎない。奇麗なトイレも効果的なアピールになる。ただの優勝や表彰記事では、読者の数は伸びない。 ・学習を頑張る事、部活を頑張る事、コロナ禍で制限され、その中でも生徒皆が頑張る場所をしっかりと作れた事がよかったのではないだろうか。 ・高校時代に挑戦したことや好きなことに取り組んだ経験が、生徒の将来の糧になると思います。部活動の表彰はもとより様々な大会や検定などに頑張った成果を紹介するコーナーを設けて頂きたい。 ・運動部（女子バレー、バドミントン、ソフトテニス等）また、将棋部女子の活躍を新聞やマスコミで知り、大変うれしく思う。 ・学習支援のための取り組みにおいて、モチベーションアップなど生徒の心の動きを意識した取り組み内容であることが、保護者として大変ありがたいです。 また、「ICT環境の活用と整備計画」や「国際交流の充実」において、これからの時代を担う生徒達にとって、スキルアップにもつながる良い学習になるのではないかと思います。 「教育のPDCAサイクルによる成果の可視化」についても、それを繰り返す事で、新たな改善点がわかり、次につながっていけるので、大変素晴らしい取り組みだと思います。	A 2名 B 3名 C 2名
3. 進路実現支援のための取り組み		
実践計画	(1)「進路指導の充実」 確かな学力を定着させて進路選択を広げる。一人ひとりの進路希望を的確に把握して進路指導を推進する。 ① 高大連携プログラム（神奈川大学・神奈川工科大学）の活用 連携校による説明会・講演会・出前授業・大学訪問等 ② オープンキャンパスや大学訪問への生徒の積極的な参加促進 ③ 大学の主催する教員用説明会への積極的な教員派遣及び生徒への情報提供の徹底 ④ 就職希望者へのキャリア指導の充実（会社説明会や会社見学への参加促進等） ⑤ 進路学習（校内実施）に外部から講師を招き、進路選択の幅が広げられるよう努める。 (2)「進路実績の向上」	

	日常的な放課後の補習（一斉・希望者・指名・個別）を効果的に実施し、更なる進路実績の向上を実現する。 ① 国公立大学合格実績の向上（30名の合格を目指す） ② 私立大学合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す） ③ 看護学校・公務員等の合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す） ④ 就職内定率の継続（内定率100%の継続）	
自己評価	・高校3年生は、従来の補習体制を継続し、共テに対応できるような指導と個別指導を充実させ、個々の生徒が進路実現のために様々な場面で学習していた。他の学年では、従来の補習体制を変更し、放課後の学習活動をより効果的にするために、特進Ⅰ類は自主活動の時間を増やした。特進Ⅱ類のゼミは英語と数学を中心にした得意教科の強化と学び直し等、個々の学力に合わせた指導を行った。総合コースは、ゼミ形式から個別指導形式に変更するとともに、検定取得のための補習を行った。この変更の結果が、次年度以降の進路結果に繋がるようにしたいと考えている。 ・毎月設けているLHRでの進路の時間を中心に各コースに合わせた進路指導を行った。しかし、従来通りの指導であるため、これから先は、生徒個々の特性やニーズ、探究活動を利用した進路選択等を含めて考えていく必要がある。 ・高大連携（神奈川・神奈川工科大）として、大学見学を行うとともに特進1年Ⅰ類で、文理選択のための方策の一つとして、文系科目では神奈川大、理系科目では神奈川工科大から講師を招いた。この中で、大学での学びがどのように社会で活かされているかなどの講義を行われ、文理選択のための学びのよい機会となった。 ・3年ぶりに大学見学を行うことができた。高校1年生では、特進Ⅰ類が東大・早稲田大、Ⅱ類が横国大・神奈川大、総合コースが帝京大に行った。1年次における進路指導としてよい体験ができた。また、高校2年生では、1年次にできなかった大学見学を、特進Ⅱ類のみ神奈川大で行ったが、生徒には、大学を知るよい機会となり好評であった。尚、保護者会も神奈川大への大学見学を行った。 ・中学部では、初めて大学体験を提携校である神奈川工科大で行った。施設見学のみならず高校での学習の大切や模擬授業等、中学生にとって貴重な体験をすることができた。 ・高校2年生は、校内で進路ガイダンスを行ったが、各自の進路に合わせた形でガイダンスを行ったため、様々な進路を考えるよい機会となった。また、就職希望者にとっても、公務員についての説明や心構えなどを聞くよい機会となった。 ・就職希望者に対しては外部講師を招き、入社試験前の面接練習、試験後には内定者セミナーを行った。その中で、挨拶の大切さを再認識させ、学生と社会人の違いなど学ぶよい機会を持った。 ・進学コース2年生は、昨年に引き続き外部講師を招き自己PR講座を行った。面接で必要な自己PR等を勉強するよい機会であった。 ・国公立大学合格者は共テ課さない推薦と総合型推薦で進学コースから3名、特進Ⅰ類から1名・Ⅱ類から5名の9名が合格した。また、共テ課す推薦で千葉大・横浜市立大・静岡県立大薬学部・新潟県立大学の4名が合格した。（最終的に国公立大学には、大阪大学1名、静岡大学3名を含め、32名が合格した。） ・特進Ⅱ類では、国公立が昨年度3名から5名に増加した。内訳は総合型推薦1名、学校推薦型4名であったが、担任を中心にした小論文指導や個別学習指導の成果だと思える。次年度以降も、同様な指導が必要となるが、それ以上に自主的な活動の成果や探究活動等の成果が必要となるので学校全体で課外活動実績やプレゼン指導等に取り組んでいく必要があると思える。 ・進学コースでは国公立大学を挑戦する生徒が増え、合格者は昨年度の1名から3名になった。また、進学希望者が増え、就職希望者が減ったことは、1年次からの進路指導の成果だと思える。 ・私立大学では、特進Ⅰ類成績上位者の国公立大志望者が多く、難関私大を受験する者が少なかったため、難関私大への合格者が減った。ただし、明治大学・東京理科大学・津田塾大学・成蹊大学等の難関私大へ合格した。進学コースを中心に県内や近隣の私大等への希望者は多く、人数的には従来通りであった。 ・看護専門学校は、例年より希望者が少なかったため、合格者の人数は伸びなかった。ただし、少人数であっても補習体制は継続して行い、進路希望に応えるように行った。また、富士市立看護では、3名の合格者を出すことができた。 ・就職状況は、例年に比べ就職希望者が少なかった。その中で公務員は警察官・自衛官の各1名ずつ、事務職は東京電力パワーグリッドを含め3名、テルモ・ジャトコ・アサヒ飲料・日本軽金属など、地元大手企業を中心に内定率100%を達成した。 ・生徒は落ち着いて授業を受けているが、一部の生徒を除き、家庭での学習習慣が定着されていない。進路実現のためにも、いかに学習習慣を身に付けさせるかが課題で、次年度からのタブレットの活用により家庭学習を充実させたい。	評価 C
学校関係者評価委員から	・校内だけでなく、校外の力を活用し、生徒のニーズに適した進路指導をしており、生徒と保護者はほぼ満足しているが、中学生の満足度が低い。（生徒と保護者のアンケート結果から） ・中学校志願者が少なく、その結果、特進コースの生徒も少ないが、それなりの進学実績を得ていることは優良。しかし、中学は全部特進に入らず逃げられているが、逃げられないようにしなければいけない。進学コースから国公立大学志願者が増加し3名とは、重要である。 ・進路指導の充実とその実績向上を掲げ、これまでの体制変更や自主活動、個別指導、検定取得など、個々に合わせたアプローチへのシフトを実施している。 ・大学との提携が単に進学のための窓口となっていないか？「創造的な協働作業・取り組み」があってこそ本筋であり、魅力も生まれる。 ・「魅力や誇り」は、生徒たちの一生懸命な取組みから生まれる。かつ、そのことが大きな広報要素へと繋がるはず。 …「富士見のワクワク・ドキドキ感」はどこから来る？ ・「中等部と高校」「高校と大学」「中等部と大学」など、それぞれのコラボで、興味深い探求活動の展開が無限に可能となろう。 ・現時点（3月初め）では進学はもう少し待ちたいが、就職者100%内定は立派である。 ・神奈川大学・神奈川工科大学とは更に合格者を出していいと思います。生徒たちの難関大学見学も継続してください。保護者の大学見学会も数回出来たら良いですね。 ・神奈川大学・神奈川工科大学との高大連携を通して、高校生の視野が広がり、進路に対する意識が高められたと思われる。他の大学との情報交換や交流にも多くの生徒が参加できるようになると良いと思います。 ・大学入試については、国公立大学や有数私立大学の合格者が年々増えており、先生の指導の充実と生徒の努力を感じます。就職内定率100%も素晴らしい。これは継続して欲しいと思います。 ・3年ぶりに保護者会大学研修会を実施でき、たくさんの保護者の方々が参加いただきました。やはり大学進学に熱心な保護者はいることを認識でき、大学研修会を執行して良かったと思いました。 ・大学入学共通テストに変わり3年目になりましたが、先生方の大学入学共通テストの指針と対策が甘いと感じています。また、大学受験をするにあたり、いまだに進学・総合コースを特進コースより優先する方針を変えないと、特進コースへ入学するメリットが無いことを認識する必要があります。近隣の他校を真似しても意味がありません。 ・進路実現支援のための取り組みについて、生徒一人一人の希望を的確に把握してご指導いただいている事が、進路実績の向上につながる良い取り組みだと思います。	A 2名 B 3名 C 2名
4. 地域連携・地域貢献のための取り組み		
実践計画	(1) 地元コミュニティへの行事参加、貢献活動 (2) 部活動による外部イベント時の演技・演奏活動を展開する (3) 施設訪問やボランティア活動の活性化	
自己評価	・コミュ研を中心にボランティア希望者を募り、富士本町での軽トラ市等の様々な地元イベントに参加し協力した。 ・ボランティア希望者を含め、吹奏楽部・バトン部・音楽部等がかじま祭り・エキキタテラス等のイベントでの演奏及びお手伝いを行った。演奏会や発表会が制限される機会が多かったため、このような機会により、部員たちも活躍の場面を得ることで励みになった。 ・コミュ研における障子張替え・網戸張替え・海岸清掃・河川清掃等、地域連携と貢献を今まで以上に進めることができた。また、以前よりボランティア希望者も増加し、様々な場面で多数の生徒が参加した。 ・富士市役所からの依頼による「ひまわりバス体験」及び「富士駅周辺商店の魅力発信チラシ作成」や「青春メッセージ」等に参加した。特に、チラシ作成や中学生による本校の魅力発信のプレゼン等、好評であった。これから先も市役所からの数多くの要請や依頼があることが考えられるため、現在行っている活動を含めて要請や依頼にどれだけ応えることができるかを検討していく必要がある。 ・富士警察署からの依頼により、演劇部がFP演劇祭に参加した。	評価 C

	- 吹奏楽部と箏曲部が、富士第一小学校で演奏会・指揮者体験及び琴の演奏・体験を行った。特に琴の体験では、丁寧な指導を行うなど小学生には好評であった。また、本校の生徒にも小学生との交流する機会を得て有意義な時間を持てた。 - 地域連携・貢献は、コミュ研が中心となりマスコミにも数多く掲載され、地域での評判を上げることに繋がった。今後、学校として部活動に頼ることなく参加等できるかを検討していく必要がある。	
学校関係者評価委員から	- コミュニティ研究会、吹奏楽部、バドミントン部、音楽部等は様々な形で、地元の行事に参加し、地域に貢献している。岳南朝日や富士ニュースに、その活動も掲載されていた。しかし、卒業式の記事では、星陵高校はあったが、富士見高校は見えていない。アピール力が足りない。 - コミュニティ研究会の活動は、地元への「密着、貢献」の視点から、当校の将来の方向性を暗示していると感じる。また、その粘り強さと信念を感じる。地元へ無欲に尽くす真摯な姿勢は、アピール度が高く頭が下がる。 - 当校の存在価値を遠慮せずもっとストレートに表に出し発信すべきだと思う。中等部への生徒勧誘もここに打開のヒントがあるように感じる。 - 地元への「浸透策」で1点。「富士市国際交流協会」とのコラボレーションを真剣に検討して欲しい、これは当校の未来の可能性を広げる。 - コミュニティ研究会の活動は地域評判が良く、新聞等で活躍が紹介され、まちづくり協議会役員会からもお褒めの言葉を頂いている。 - コミュニティ研究会が地域貢献に生き生きとして取り組んでいる様子が新聞等で掲載されている記事を見ますと、活動が地域に理解されて、評判の良さが伝わってきます。これからも、生徒が主体性を持って続けて行って欲しいと思います。 - コミュニティ研究会が中心になり、ボランティア希望者がウクライナ募金や海岸・河川の清掃で、地域貢献して頑張っていると思います。 - コミュニティ研究部が、地域の各イベント及び行事、清掃活動に積極的に参加したことで、様々なメディアに記事が取り上げられ、富士の地域から良い評価をいただいていると思います。 その反面、そういった地域イベント・地域行事に参加するには、事前計画・事前準備が大切なことを、今後も十分配慮して頂きたいです。 - 地域との連携や地域貢献の取り組みについては、コミュニティ研究会を中心とした活動は素晴らしいと思います。富士駅周辺の地区だけではなく、それ以外の地域にもその活動を広めて行って頂きたいと思います。 今後もまた、学校・家庭・地域が一体となり、活動を推進して頂ければ、素晴らしいと思います。	A 3名 B 3名 C 1名
5. 生徒募集のための取り組み		
実践計画	(1) 入学者確保のための分析・戦略 (2) 広報活動の活性化 (3) 広報行事のアピール内容の強化（学校説明会・部活動見学会・体験入学等） (4) 中学校・塾との連携強化（学校訪問・塾訪問強化） 各校訪問・各中学校が主催する進路説明会への参加等を積極的に働きかける 大手の塾だけでなく中小の塾への対応をきめ細かく行う (5) 地域への啓発活動 (6) ホームページや SNS を利用した広報活動の拡充	
自己評価	- 高校は、R4 年度入学者 328 名（外進生 315 名、内進生 13 名）に対して、R5 年度入学者 413 名（単願のみ・R5.02.10 現在）は（外進生 397 名、内進生 16 名）と定員 400 名を超えることができた。特に、総合コースにおける希望者が多く、中学生とその保護者のニーズに沿ったコースの特色がマッチしたと思われる。しかし、特進コースでは、ここ数年来、入学者の増加が見られず、今後厳しい状況も考えられるために、併願者を含めた志願者増加に繋がるように、従来のコース目標と指導方法の見直しも必要だと考えている。 - 中学は、R4 年度入学者 17 名に対して、R5 年度入学者 16 名と定員 60 名の 27%と厳しい状況であった。特に、多読・ALT の副担任制など英語に特化した指導方法により富士見中の特色をアピールしてきたが、即効性がなく結果が出るには時間がかかるため、今後も募集には苦慮されることが考えられる。 - 今年度も広報活動の強化に努めた。その中で、塾訪問は中学入試への受検依頼を含め、改善すべき点に対しての質問等を行い、各塾長からも私立中学に望むもの・本校の方向性等を聞く機会を年 3～4 回程度行ったが、受検者増加に繋がらなかった。また、富士地区の中学校訪問は、ほぼ毎月、チラシ配布を含め行った。特に、本校の校長が 4 月当初の中学校長訪問に加え、2 学期にも学年主任や進路担当への訪問を行い、受検依頼を行ったことは受検者増加の大きな要因になったと思える。 - 広報行事として、部活見学会を 6 月から 12 月まで土曜日の午後に計 9 回実施した。好評であり、小学生を含めて常に 2 桁の参加者があったので次年度も継続していきたい。 - 学校見学会・入試説明会は、中学高校で各 3 回ずつ実施したが、高校では多数の参加者があった。しかし、中学では 20 名前後の参加者にとどまり内容を含めた大幅な変更の必要があると思われる。 - 体験講座・入学は、中学と高校で各2回ずつ行った。中学では、理科・社会・英語は例年通りであったが、新しく試みた美術では、児童の反応もよく好評であった。高校では、コロナ感染症対策として 2 回に分けて行ってきたが、1回目に比べ 2 回目は人数が多くないため、従来の1 回開催も検討していきたい。 - 高校の体験入学では、各コースの説明を在校生が行うことにより、中学生・保護者ともに非常に好評であった。 - 中学の説明会では、在校生の発表はおおむね好評であったが、今後は、保護者の視点からも富士見中の良さをアピールしていただける機会を持ちたい。 2 学期末に実施した個別相談会では、多数の参加があり、受検者と保護者の要望に応えることができたと思える。しかし、特進コースの相談件数が増えていないので、増加に繋がるようなコースのアピール内容を検討していく必要がある。 - 各中学校で開催される進学説明会へは、積極的に参加し本校の魅力と特色を発信してきた。また、説明会での説明を、管理職や広報部長のみならず、中堅教員で行うことにより、従来と違う視点で説明したが、次年度は更にこの機会を増やすことで、学校の魅力発信を行いたい。 - 塾等を中心にした説明会を 2 回実施した。中学校では、従来通りの説明で本校の魅力発信に繋がらなかったため、保護者の説明会への参加増加に繋がらなかった。逆に。高校においては、特進コース等の教育活動を理解していただく中、塾からの薦めにより受検をきめたケースもあった。 - 中学受検者において、説明会に参加してくれた場合、本校の良さを理解していただき受検するケースが多かった。しかし、説明会への参加者が少ないため、受検者の増加には繋がらなかった。この地区全体では、中学受検希望も相当数あるので、いかに説明会に参加してもらえるかが課題だと思える。その為にも、高校卒業後の進路先として特進コースの役割は大きく、特進コースの改革も考える必要がある。 - 小学校とまちづくりセンター・公民館へのチラシ配り等、説明会等への参加を依頼してきたが、なかなか効果があがらなかった。 - Twitter・インスタグラム等の SNS を使った広報活動として、学校行事や部活動の試合結果等、早めにあげることに努めた。ただし、フォロワー数の伸び悩みと「いいね」が 10 数件のみとなかなか増えない状況であったが、今後も続けていく必要があると感じている。 - ホームページに関して、担当者が様々な業務を掛け持っているため、更新が遅れているのが現状で、今後、専任の係をつける必要があると思える。	評価 C
	- 進学コースを総合コースに変更し、進学と就職を含んだ形になり、志願者の気持ちに沿ったものとなり、入学者も増加した。 - しかし、中学校と高校・特進コースは、当初から定員割れが続き危機的である（特に中学校）。生徒募集の方法に大きな改善が必要である。 - 入学生確保、広報活動、広報行事の内容再考、中学校や塾との連携、啓発活動と HP や SNS の活用拡充に鋭意取り組んだとの報告があった。 - 高等部 400 名を超えたことは喜ばしいニーズである。分析して次年度以降の参考とすべき。	A 2名 C 4名

学校関係者評価委員から	・ 特進コースの改善対策は、どのように手直しするのか？ ・ 中等部の生徒募集底上げの一つ。「神奈川大学」と中等部生徒とのコラボを企画できないか？単に講義を受けるのではなく「協働する」ことを。 ・ 【英語教育】 英語教育に力を注がれる様子が伺われるが、今後、特化していくことはどうだろうか。小学校から教科となった今は「出来て当たり前」になっていて、活用できる場面を創出することが遥かに重要となる。その環境整備が何よりも望ましい。 ・ 【交流の場の創出】 姉妹校のグレース・ルーザラン・カレッジ、台湾の姉妹校、留学生の出身校、ALT の出身校等と提携整備を図るなら、Online により生徒諸君は毎日でも校内に居ながら、交流が可能となる。次のステージとして、これら点をつなげ束ねる力が学校にないと、無駄になってしまう。 ・ 【生徒募集】 募集訪問は、それぞれ実施回数が増加し「大変だった」と思われる。そんな中、広報活動強化の面で、何が一番、効果があったのか？長年バレー部やバトミントン部が注目を引くが、「どうしてか？」を分析していくことも間違いなく、そのヒントに繋がるはず。 ・ 令和5年度は高校への入学者定員オーバーだが、私が富士見高校にお世話になってからはじめての経験です。生徒を増やすために頑張った担当の先生方にお疲れ様でした。 なぜ富士見を選んできたのか？ そもそもの所一人一人に聞きたいですね、それが次に繋がると思います。 ・ 令和5年度の高校入試が定員400名を超えることができ安心しました。生徒募集のため、年間を通して幅広く広報活動に取り組んでこられた教職員の方々の熱意が感じられました。今後も、安定につなげたいと思います。 ・ 中学の入学者数が増えないのは、コロナ禍で学校訪問が制限され、努力したが広報活動が厳しかったと思われます。 ・ 今年度も先生方が各中学校へ赴き、富士見高校の説明会を行いました。去年までの各学校の保護者からの意見がガラリと変わりました。数校の保護者から聞いた話ですが、 『富士見高校の説明をした、教頭先生の話が素晴らしく、こちらが聞きたいと思ったことを的確にお話してくださり、親子ともども聞き入ってしまいました。参加した周りの方々も同じだったようです。』 と仰るのです。今後は、教頭先生が学校説明をご担当するのが適任と考えます。 ・ 中学説明会については、危機的状況が続いていましたが、保護者・生徒が関心を持つ新しい取り組みが無かったための結果になったと思います。 ・ 令和5年度の入学者が定員を超えたことは、大変すばらしいことだと思います。これも実践計画の結果だと思います。	1名 高校 A 中学 D と 評価
	学校関係者評価委員から、その他の意見	
・ 生徒募集、ホームページ等の広報の場に在校生の協力を求めることで、在校生は会話する力、ホームページ作成力、企画力を身につける。また、志願者は生徒目線の説明を受けることができ、志願者の増加に寄与すると思うと同時に、教員の負担は減少する。（しかし、ホームページが1週間変わらないなど、止まっていることが多い。） 生徒募集では、校長自らが学校を回り、その時は誰かを連れて行き、向こうの学校の担当の先生と話をさえることが必要。校長同士の話は意味がない。本校は、通学利便な最適な場所にあり（保護者アンケートからも志願理由のトップが「通学の利便性」）、授業料の無償化で公立校と私立高の差は殆どなく、現在、志願者が増加するチャンスである。 ・ 【評価委員会の開催】 教育活動量の増加から、中間に委員会を新たに設ける方法もありかと思う。1回では消化しきれない面がある。資料の送付等も検討いただきたい。 ・ 【全体取組み】 すべてが、富士見全体の教育活動（一つのテーマ（理念））に集約されているか？ 学校側評価にA判定が無いのは、それらが集約されてないからか？もしそうであるなら、教育活動を整理し、明確な方向性を共有し、効果ある取り組みをして欲しい。また、B、C、D判定の根拠も記載して欲しい。 中高一貫の特徴を最大限活かす方策が、クリアーに見えてこないのは残念である。 ・ 【知ってもらうための方策】 世の中が知りたいことを、学校側が提供しているようには思えない。 教育活動の取り組みが一方通行となっていないか気にかかる。教員の自己満足に終わってないか。 一緒に相互間で創り出す喜びに勝るものはない。そのあたりが希薄か。 オープン・スクールは、「知ってもらう/壁を取り払う」を目的とする。地域の人々や親御さんが潜在的求めているものを確実に掴み、提供して欲しい。 ・ 【時代の潮流を掴め】ガラパゴスとなるな！ 中高連携も高大連携も互いに「創り出す場面」が必要。そこに魅力が創出され引き付ける力が出るはず。次のステージとして、出前授業だけで良いのか。大学との提携から、探求をテーマにし、クリエイティブな「協働研究」が出来ないものか？ 例えば、昭和女子大が私学中学校と提携し、中学生と大学生が取り組むプログラム。育英西中学校・高等学校の事例・・・関西10大学との提携と諸活動の展開なども参考になるのでは。当然、海外とのやり取りもできるので、内向きな思考にならず、外へ向けた発信力を養って頂きたい。 ・ 【Glocal化への対応】 地元を掘り起こすこと。… 地元を見つめ、再発見するための活動を創造すること。その点、「コミュ研」の活躍は当校の未来を照らしてくれる良い見本。エッセンスを分析・解析すべきだと思う。 ・ 【100周年】 100周年に向けたアドバルーンは？ それに向けた、先生方や生徒の意識高揚をどう実施していくか？ ・ 【学校評価書の記載】 「自己評価」の記載が羅列標記であり見にくく、評価が大変しづらく、評価委員に対して配慮に欠ける。せめて、項目別に、「効果があった」、「効果なし」、「改善の必要」などの分類で標記があって欲しい。また、各項目の評価A、B、C、D判定も、どういう根拠での評価なのかも記載して欲しい。 ・ 令和6年度より富士市公立小中一貫が始まり、今年度は大淵第二小、来年度は吉原東中そして次が東小と吉永二小と閉校します。 富士市の町場の小学校は新一年生の児童数が50人切る様です。少子化がかなりの速度で進みます。富士見中学校の募集減は仕方ないか。 これからの生徒募集は更に受験する生徒・保護者の気持ちを理解することが、絶対だと思います。特色が良く見えるような学校にしないと駄目。 ・ アンケート調査で学校のいじめが少なく、非常に良好な状態で、学校生活を送っているのがわかる。 ・ 他の委員からもあったように、この評価書は難しく、学習面の改善の評価などは、重荷であり、負担である。もう少し簡単にしてもらいたい。 ・ 礼法室の畳が新しくなったので、礼法部の部活を新しく作って欲しい。礼法は一生の宝だと思います。 ・ 『それは無理です』『それは出来ません』ではなく、新しいと思えることを、斬新と思えることを、試しに1度は実施してみましょう。 どんなアイデアが成功するかどうかは、実施してみなければ分からない事です。失敗したら以降は実施しなければ良いだけの事です。 ・ 今後とも、教育学習面だけでなく部活動においても、生徒たちが更に良い結果を出していけるよう、ご指導のほど、宜しくお願い致します。 また、保護者会活動においても、益々のご理解とご協力を頂きますよう、宜しくお願い致します。		
今後に向けての学校の考え（学校関係者評価を受けて）		
令和6年度より中学校の募集停止を決定したことにより、高校の募集活動にも影響があると考えられます。その中で、総合コースでは様々な進路に対応できるコースとして名称変更を含めて一定の効果があったと思います。しかし、特進コースでは、入学者が微増で定員に達していないのが現状です。そのための改善策として、以下の対応を考えています。 ① 特進コースに対しての現状分析を含めた改革を行い、中学生・保護者のみならず地域からも【行ける学校から行かせたい学校】への転換を図る。具体的には、特進コース研修会を立ち上げ、今まで以上に進路に期待できる学校へと考えています。 ② 募集活動の充実を図るため、ホームページやSNS等を利用したPR方法の改善及び生徒が発信者となつての広報活動への参加などを行う。特に、従来の個別指導と寄り添った指導を充実させることにより、卒業時に本校での学校生活が楽しく富士見でよかったという満足をさせていくことを目標とする。 ③ 今年度の高校1年生から導入したiPadを活用できるように校内研修の充実と共に、SNSでの問題が起きないように情報モラルの指導を行っていく。 アンケート調査においては、学校評価書とリンクすることへの変更により、評価委員からの意見が反映されやすい形に直していきたいと考えています。		